

# 現代中国語におけるアスペクト助詞 “了” と「文終止」問題について<sup>1</sup>

下 地 早智子

## 0. はじめに

現代中国語の普通話において、アスペクト助詞“了”を伴う動詞述語が目的語をとるとき、その目的語は“数詞+量詞”などによって限定修飾されなければならない((1a)),<sup>2</sup> そうでなければ文が終わった感じがしない、または独立文として「文終止」しない((1b)), とされている。

(1) a. 小王 吃了 三碗饭。

b. 小王 吃了 饭……

「文終止」問題と呼ばれるこの現象に対しては、事態の「限界性」という、動詞や“了”のアスペクト的性質から解釈を行うのが目下の主流である。

その一方で、アスペクト論による“了”の捉え方とは異なり、“了”は中国語の動詞述語を、抽象的で概念的な動作を意味するものから、具体的で個別的な動作を意味するものに「限定」する働きをしており、その役割は名詞句を個体化(「限定」)する“一个”(“数詞+量詞”)と並行的である、と捉える先行研究がある。<sup>3</sup>

本稿は、“了”の役割を後者のように捉えた場合、「文終止」に関わる諸問題に対して、アスペクト論的な解釈とは異なる観点からの説明が可能になるのではないかと考え、それを試みるものである。

1 本論は、2002年3月東京都立大学人文科学研究科に提出した博士論文の一部に加筆・修正を加えたものである。

2 または、文末助詞の“了”を付け加える。(小王 吃了 饭了。)

3 新島1955, 橋本1976など。また、倉石1963:14, 木村1997a, 注10)も参照。

# 1. 先行研究の成果と問題点

## 1.1 “了<sub>1</sub>” = 「完了体（完成体）」(perfective) と位置づける研究

本稿では，“了<sub>1</sub>” = 「完了体（完成体）」(perfective) と位置づける研究として，Comrie1976, Li and Thompson1981, 木村1996, 1997ab を中心に取り上げる。

これらの先行研究は，「‘perfectivity’ を表す “了” は，ある出来事を全体としてひとまとまりのものであると見なし，その出来事が時間的・空間的，或いは概念的に限界付けられたものであると見なされていることを示す」(Li and Thompson1981 : 185) という見方をとる。そして，このような “了” の位置づけから，(1)のような文の目的語に数量表現が要求される理由は出来事を限界付けるためである，と説明している。

さらに，木村1997a は，(2)に見られるように，動詞が意味的に限界性を有するか否かによって文終止に関する動詞の振る舞いに差があることを示し，“了” = 「完了」という位置づけに，より強い妥当性を与えている。<sup>1</sup>

(2) 弱 ←————— 動詞の[+限界性] —————→ 強

	“找”型 (atelic)	“吃”型	“过”型 (telic)
単独の目的語	?? 小王找了独木桥。	?? 小王吃了饭。	小王过了独木桥。
“了 <sub>2</sub> ”	?? 小王找了独木桥了。	小王吃了饭了。	小王过了独木桥了。
次の出来事	?? 小王找了独木桥，就回村里去了。	小王吃了饭，就出去了。	小王过了独木桥，就往东跑了。
数量限定表現	小王找了一会儿独木桥。	小王吃了两碗饭。 <sup>1</sup>	*小王过了一会儿独木桥。 <sup>2</sup>
結果補語	小王找到了独木桥。	小王吃完了饭。	*小王过完了独木桥。

文終止に関わる問題のうち，これらの先行研究では次の二点が課題として残されている。一つは，限界性の低い動詞であっても，小説の地の文では “她也找了我。” や “他喝了酒。” の形で文終止している用例を見出すことが

1 「網かけ」で塗りつぶされた例は，木村1997a に挙げられていない例を筆者が補ったものである。これらの例は全てネイティブスピーカーによるチェックを受けている。  
 2 ネイティブスピーカーによると “过了一个桥” なら言えるが，この場合は “一个” が冗長に感じられるという。

できる点である。<sup>1</sup> 限界性の低い動詞は、どのような条件の下において (1b) の形で文終止するのだろうか。<sup>2</sup> もう一つは、たとえ 限界性の高い動詞であっても常に“V了0”の形式をとるわけではなく“VO了”の形式をとらなければならない場合がある点である。

## 1.2 談話文法的アプローチ

大石1982, 讚井1998, 呼美蘭1999などの先行研究は、前節の先行研究とは目的意識が異なり、“了”そのものの文法的意味を探ろうとしたものではなく、実際の用例を分析することによって、どのような文脈において“V了0”が文終止しているのか、そして“V了0”と“VO了”の使い分けがどうなっているのかを、帰納的に明らかにしようとした研究である。

大石1982は、“VO了”の形式が小説の会話文に多く現れることから、これを話し手の心的態度を表す場合の形式であるとし、“V了0”が地の文に多く現れることから、「すでに実現したことがらを、話者のムードを特に表明することなしに叙述する場合には、時態助詞だけで文終止する傾向にある」と結論している。

讚井1998は、「情報の充足度」という観点から、(3)の下線部に見られるように、主語が誰のことで目的語が何を指しているかが全て文脈によって明らかにされている場合は、目的語が単独であっても“V了0”の形式で文終止する、としている。

- (3) “但是我们要唱歌，还要唱歌！”一个大胡子的中年农民举着酒杯站了起来，“让他们见鬼去吧，我们把你接到我们的生产队，艾克兰穆，我就是队长！我们给你九分半住宅地！我们帮你盖房，帮你栽葡萄；每天晚上，我们要在你的葡萄架下唱歌。歌曲万岁！”。

1 大石1982の指摘による。

2 木村論文では、“了”の表現機能を三つ挙げている。このうちの「過程描写文」は数量詞を伴わない目的語をとって文終止するが、その述語形式は動補構造か限界性の高い述語形式に限られるという。

他喝了酒。众人欢呼，闹嚷七嘴八舌唱了起来。

《歌神》

そして“V了0”と“VO了”の使い分けに関しては、(4A)のように、談話の冒頭において、出来事全体を一つの情報として聞き手に差し出す場合（讚井1998ではこれを「全体情報」と呼ぶ）は“VO了”の形式が用いられ、出来事の細部に踏み込む場合には（讚井1998ではこれを「部分情報」と呼ぶ）“V了0”形式が用いられるとする。(4A) 下線部の動詞が限界性を有するものであることに注意されたい。

(4) Q. 小王他们最近怎么样？

A. 你不知道吗？他们上个星期离婚了。(全体情報)

(?) 你不知道吗？他们上个星期离了婚。

(Q. 王くんたち、最近どう？ A. 知らないの？先週離婚したよ。)

また、呼美蘭1999は、時間詞やモーダルな副詞、指示詞などとの共起関係から、“VO了”と“V了0”の違いは、話し手の「視点」が場面のどこに置かれているかの違いであるとする。(5)に見られるように“VO了”の形式は、“现在”（今）という時間詞や“这个”（この）という近称の指示詞と共起することから、話し手の視点は話し手が月を見ている場面に置かれているということがいえる。そして、(6)に見られるように、“V了0”は“那”（あれ／それ）という遠称の指示詞と共起することから、話し手の視点は話し手が月を見た場面よりずっと後の時間に置かれており、話し手は別の場所からそのシーンを回想しているものといえる。<sup>1</sup>

(5) 是的，我又看见月牙儿了，带着点寒气的一钩儿浅金。多少次了，我看见跟现在这个月牙儿一样的月牙儿：多少次了。

(6) 妈和我还穿着白袍，我又看见了月牙儿。那是个冷天，妈妈带我出城去看爸的坟。

((5)(6)ともに《月牙儿》，呼美蘭1999より)

1 ここである「全体情報」「部分情報」という概念や「視点」の置かれ方の違いという観点から、Comrie, 1976における‘perfective’‘imperfective’の定義に類似する点にも注意されたい。讚井1998の結論が正しいとすれば、“V了0”の形式はComrie, 1976における‘imperfective’に相当することになる。

以上のアプローチでは、次の二点が課題として残る。一つは、これらの研究で述べられている“VO了”と“V了O”の使い分けと「文終止」問題の関わりが明確でない点である。もう一つは、前節の先行研究で指摘されている動詞の「限界性」ということと、これらのアプローチによる研究成果はどう関わるのか、という点である。

### 1.3 “了” = 「完了」説への疑問

#### 1.3.1 “V了O”が限界性の高い事態を表さない例

1.1の先行研究では、“V了O”形式の目的語に数量表現が要求される理由は、出来事を限界付けるためであった。しかしながら、刘勛宁1988等で指摘されているように、(7)のような存在文で表される事態は、“了”でマークされているにもかかわらず、限界性の高い事態であるとは捉えがたい。

(7) 墙上挂了几幅画。(壁には幾つかの絵が掛かっている。)

また、存在文のような特別な構文ではなくても、“V了O”が限界性の高い事態を表しているようには思われぬ多くの例が存在する。

(8) a. 小王养了两条狗。(王君は犬を二匹飼っている。)

b. 今天我们带了两本书，一本是贾平凹先生的散文，一本是《中华文学通史》…。(今日われわれは本を二冊持っています，…)

(实话实说：2001/4/8)

c. 再说了，我欠大雨的钱老还不上，我要是再拿这笔钱我还算人吗？

大雨欠了信用社的贷款。这钱还是让她用吧。 <<贫嘴17>>

(大雨は信用組合に借金をしている。)

d. 自打你妹妹去世以后呀，我害了一个月单相思。 <<贫嘴18>>

(妹さんが亡くなってから、私一个月片思いを患っているの。<sup>1)</sup>)

(9) a. 哎，你看我的衣服就不错吧？它体现了劳动人民质朴的美德，怎么样？ <<编辑部1>>

1 ドラマの内容では、話し手は発話時にも依然として片思い中である。

(私の服は) 労働人民の質朴の美德を体現している)

- b. 有的语法书用了其他名称, 如“性质动词”和“动作动词”, “常态动词”和“变态动词”, 名称不一样, 本质大同小异。

(沈家煊1995)

(別の文法書では他の名称を用いている)

動作(継続)動詞を用いた“他吃了三碗饭”(彼はごはんを三杯食べた)という事態であればともかく, (8)(9)のような例については, 出来事を限界付けるために, 目的語に数量表現が要求されていると考えることは困難である。

### 1. 3. 2 「実現済み」の事態に“了”が用いられない場合

また, これまで多くの先行研究に指摘があるように, 中国語では「完了」(または「実現済み」)した動作を常に“了”でマークしなければならないということがない。この状況も“了”=「完了」とする位置づけだけでは説明のつかないものである。

- (10) a. 这两年我在矿上看够了他们做的事。

——你看见什么?

《雷雨》

(ここ数年, 俺は炭鉱でやつらのやりくちをたっぷり見てきたんだ。——兄さん何を見たの?)

- b. 昨天早上已经复工, 不成问题。

《雷雨》

(昨日の朝には仕事にもどっとる, 問題にならんよ。)

- c. 第二天, 她正和国王还有其他朝臣坐着用金盘子吃饭时, 有个什么东西从大理石台阶上爬上来, 噼里啪, 噼里啪。它爬到顶端, 敲敲门, 叫到: “国王的小女儿, 你给我开门。”她跑过去看看是谁, 打开门一看, 原来是那只青蛙, 就赶紧把门用力碰上, 走回桌子, 感到很害怕。

《格林童话》

(翌日, おりしも姫は, 王や重臣たちといっしょに食事について, 黄金の皿で, ごちそうを食べていた。すると何やら, ピシャリ,

ピシャリと音を立てて、大理石の階段をのぼってくる。ノックにつづいて、大きな声がした。「末のお姫さま、戸をおあけ」姫がはしりよってドアをあけると、例の蛙がすわっていた。あわててバンと戸をしめて、食事にもどったが、胸ははげしく動悸を打っていた。) 『グリム童話』(ちくま文庫)

## 2. 現実と非現実

### 2.1 “了”の役割

郭锐1997では、「現実の状況を表す文は、必ず時間性成分(了, 着, 过, 在, 正在, 呢)を伴わなければならない, そうでなければ非現実の状況(命令, 意志, 計画, 習慣, 一般的法則)しか表せない」としている。

(1) a. 桥断了。 a'. \*桥断。

(橋が折れた)

b. 他抽着烟呢。 b'. 他抽烟。

(彼は煙草を吸っている) (彼は煙草を吸う(習慣))

(郭锐1997)

その他、いくつかの先行研究において、<sup>1</sup> 動詞に付加される“了”は、単独の動詞の表す一般的で概念的な動作を、現実の個別的な動作を意味するものに変える機能を有し、その役割は、一般的・概念的な事物しか表さない単独の名詞を現実の具体物を意味するものに変える“个”の働きと並行的であるとする捉え方が散見される。<sup>2</sup>

(12)

N (单独)	一个+N	V (单独)	V+了
一般的・概念的 事物	个别的・具体的 事物	一般的・概念的 動作	个别的・现实的 動作

このような捉え方は、“是, 等于, 当, …”のように抽象的な関係性しか表さない動詞が一般に“了”をとらないことや、“经常, 常常, 时常, …”

1 本稿1ページ, 注3参照。

2 性質形容詞と状態形容詞の関係もこれらと並行的である。

のような経常性を表す副詞が“了”との共起を嫌うことなどと符合する。

本稿では、上記の捉え方を採用し、「現実／非現実」を次のように定義しておく。

(13) 現 実 (現 実 状 況) : 話し手は当該の動作が言語外世界に実際に生じた個別的な動作であると信じている。

非現実 (非現実状況) : 話し手は当該の動作が現実の動作ではないととらえている。

現実の出来事は時間軸と結びつき得るが、非現実の出来事は脱時間的である。

## 2. 2 予測される反論

前節のような捉え方に対して、すぐに予測できる反論は、動作を一般的・概念的動作から現実の個別的動作に限定する機能はなにも“了”のみが持つものではなく、(14)に見られるように動詞がアスペクト助詞を伴えばその動作は「個別化」されるのであり、従って「現実化」を“了”のみの特徴とすることは不適切である、というものである。

(14) a. 他看着书呢。(彼は本を読んでいる)

b. 他去过上海。(彼は上海に行ったことがある)

この点に関しては、次のように考えたい。名詞を個体化する機能を有するのも“一个”だけではない。“我的”や“雪白的”のような限定修飾表現にはすべて名詞を個体化する機能があるといえる。にもかかわらず、特に“一个”だけが個体化機能を有するものとして議論されるのは、個体化の機能以上の実質的意味が希薄であり、機能語としての用法が顕著な場合があるためである。このような“一个”の状況に似て、“了”は動作を現実化する機能以上に実質的意味を持たない文法的要素であると考えられる。“了”以外のアスペクト助詞は、動作の現実化ということは既に前提となっており、それ以上の意味を付け加える用法を持っている。しかもその「現実化」以外の用



法の方が、それらの助詞の特徴づけに有効な用法であるといえるのである。<sup>1</sup>

### 2.3 “不” と “没”

中国語には、“不” と “没” という二種類の否定詞があり、両者の使い分けは外国人にとって極めて複雑なものに感じられる。このうち、アスペクト助詞“了”を伴う文を否定文にする場合には必ず“没”が用いられ、しかも“没”による否定を受けると文中の“了”は消去されることから、“没”と“了”は表裏の関係にあるとされてきた。<sup>2</sup> “没”による否定は、“不”による否定とどのような対立をなしているのだろうか。

井上・黄2000 から抜粋した(15)は、“不” と “没” の使い分けをテンス・アスペクト的観点から捉えたものである。

- (15)
- |                          |        |     |
|--------------------------|--------|-----|
| 1) 一般論の否定                | —————▶ | “不” |
| 2) 個別事象の否定               |        |     |
| a. ‘状態’ (静的事象の否定)        | —————▶ | “不” |
| b. ‘基準時以後の動的事象’ の否定      | —————▶ | “不” |
| c. ‘基準時及び基準時以前の動的事象’ の否定 | —————▶ | “没” |

しかしながら、(15)のような例において“没”ではなく、“不”が用いられている理由は、「基準時」以前／以降という問題ではない。

(16) a. 昨天我身体不舒服，只好不上课。 (白荃2000)

(昨日は具合が悪かったので、仕方なく授業に行かなかった。)

b. 上次我走的时候，我不知道我的事情怎么样。外面人地生疏，在这儿四凤有邻居张大婶照应她，我自然不帶她走。现在我那边的事已经定了。四凤在这儿又没有事，我为什么不帶她走？ 《雷雨》

(前回出かけた時は、仕事がどうなるかも分からなかったし、むこうの事情も分からなかったし、ここでは隣の張おばさんが面倒

1 讚井2000：「アスペクト対立は欠如的対立 (privative opposition) である」

2 “了”以外のアスペクト助詞は“没”による否定を受けても消去されない。刘勛宁1988参照。

を見てくれるから、あの子を連れて行かなかったのです。

また、(17)におけるような“没”は、話し手が未来の計画について十分な確信を持っている場合に用いられるものであるという。

(17) 明天他还没回来呢，你后天再打电话来吧。 (白荃2000)

(明日は彼はまだ帰っていません。)

白荃2000による“不”と“没”の用法のまとめでは (18)、テンス的要件が捨象されており、「主観性／客観性」という話し手の事象に対する捉え方の違いに着目している点が、(15)と大きく異なる。

(18) “不”和“没”最主要，最根本的区别并不在于时间因素上，而是在于叙述的角度是主观还是客观上。

“没”：客観的事実（動作の発生，進行，完成，過去の経験）の否定

“不”：①主観的な否定の意思

②状態・習慣・属性の否定

(18)における「客観的事実」とは、本稿における「現実」（現実の時間軸と結びついた個別的事態）の動作に相当し、「主観的意思」や「状態・習慣・属性」は、「非現実」（脱時間的な抽象的事態）の動作に相当する。すなわち，“没”は現実の動作を，“不”は非現実の動作を否定する否定詞であると捉えることが可能である。<sup>1</sup>

以上の“不”と“没”の使い分けのまとめについて、傍証として次の現象を挙げておきたい。益岡1997によると、条件関係を表す複文の定義は、「後件（主節）で表される事態の成立が前件（条件節）で表される事態の成立に依存し、かつ、前件が非現実の事態を表すもの」（p.47、下線は筆者による）とされている。中国語の条件複文の前件に否定詞が現れる場合、述語動詞が“有”であるときを除けば、<sup>2</sup> 用いられる否定詞は“不”である。条件複文

1 倉石1963：「動詞の否定には bu（不）と mei（没）の二つの形式があって、前者は、特定または具体的でなく、現実化しない動作のばあい用いられ、後者は、特定の、具体的な、現実化した動作のばあい用いられる。」(p.14) また、木村1996, p.178にも関連の指摘がある。

2 大哥，没什么事儿我先回宿舍了，有个材料明天一大早就交，我一个字还没写呢。（兄さん，何もなければ僕はひとまず帰るよ。）《貧嘴13》

の前件が非現実の事態を表すとすれば、“不”が非現実の動作を否定する否定詞であるという先ほどの結論とこの事実はうまく適合するのである。

(19) a. 知识分子啊, 不拿钱托着, 永远也得不到别人的尊重。《编辑部1》

(知識分子ってやつは, 錢で支えてやらなければ, 永遠に人の尊敬を得ることは出来ないのさ。)

b. 行了, 行了, 我答应你们请客, 我就是个好领导, 不同意你们请客, 我就是个不好的领导。 《编辑部10》

(私が接待を承諾すれば私は良い上司で, 承諾しなければ悪い上司だってことだな。)

### 3. “V了O” と “VO了”

#### 3.1 異なるレベルにおける出来事の実体化

前章では、“V了O”の形式に現れるアスペクト助詞の“了”(以下“了<sub>1</sub>”)は、一般的・概念的動作しか表さない単独の動詞を、個別的・具体的動作を表すものに変える働きをしていると述べた。しかしながら、(20)に見られるように、“VO了”の形式に現れる文末助詞の“了”(“了<sub>2</sub>”)にも同様の働きがあるように思われる。両者の違いはどこにあるのだろうか。

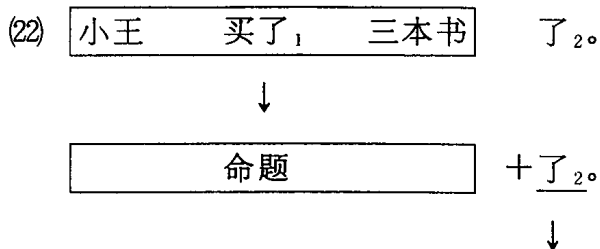
(20) 他喝酒了。(彼は酒を飲んだ。)

文末の“了”の役割を考えるに当たっては、その有無によって意味に最も明確な差が現れる(21)のような例を出発点とするのが妥当である。よく知られているように(21)aの発話は、“小王”が過去のある時点において本を三冊買ったことを意味しており、それがいつ行われたかについては何も言っていない。このような文には、“昨天”“去年”“我在中国的时候”などのように、過去の時間を表す時間詞を加えることができる。これに対して、(21)bは“小王”が発話時現在の時間までに、本を三冊買ったことを意味しているという。そして、(21)bの形式の文には、“昨天”“去年”“我在中国的时候”などのように、過去を表す時間詞を付加することは出来ず、“今天”“今年”“现在”な

どのように、発話時現在を含むような時間詞だけしか用いることができない。時間詞が何も付加されない場合は、“到说话的时候”（発話時まで）や“到目前为止”（目下のところ）という意味が自動的に生じる。<sup>1</sup>

- (21) a. 小王买了三本书。（王さんは本を三冊買った。）  
b. 小王买了三本书了。（王さんは本を三冊買ったところだ。）

つまるところ、文末に現れる“了”は、文の表す客観的な意味内容（以下、「命題」と呼ぶ）を話し手と聞き手にとっての現在、及び対話の現場の状況に直接的に結びつける働きをしているものと考えられる。<sup>2</sup>



#### 対話現場への結びつけ

新島1955に従い、抽象的・概念的動作を具体的・個別的動作を意味するものに変える働き（すなわち、動作の現実化）を「限定」と呼ぶことにすると、“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”は、それぞれ働く段階は異なるものの、その働きは等しく「限定」であると捉えることができる。

- (23) 限定：事態を抽象的レベルから → より具体的レベルへ  
“了<sub>1</sub>”：抽象的・概念的動作を → 具体的・個別的動作へ  
“了<sub>2</sub>”：命題内の個別的動作を → 対話の現場に直接結びついた出来事へ

“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の働く段階が異なることは、(24)のような例で確認することができる。

- (24) “那么，天空里刮大风，谁在扇大扇子呀？”小天真问。

1 多くの先行研究に指摘のあるところであるが、時間詞との共起関係が明記されていることから、本稿では郑懿徳等1992の記述を参考にした。

2 この捉え方は、N. Li, Charles & S. A. Thompson & R. M. Thompson 1982 p.24における“了<sub>2</sub>”の捉え方に等しい。同論文では“了<sub>2</sub>”を‘perfect’の標識であるとしている。

“问得好！”老爷爷说：“我们还有一个脾气，热了，就要变大，变轻，就要上升。一处地方的空气上升，旁边的空气立刻跑过来填补。那么空气流动，就…”

“起了风！”小天真接着说。

(\*起风了)

《风》

「それじゃあ、空に大風が吹くのは誰が大きなうちわであおいでいるの？」とマコト君が尋ねました。「いい質問です。」ものしり博士は(風のつもりで)言いました。「私たちにはもう一つ性質があります。それは、温かくなると大きくなり軽くなって、そうして上へのぼっていくのです。一箇所の空気が上へ昇ると、そばの空気がすぐさま埋めにかけてきます。そうすると、空気は動き、そこで…」

「風が起きるんだ!」マコト君がつづけていきました。

(24)の“起了风!”を“起风了”と置き換えることはできない。そうすると、“起风了”の“了”が命題内出来事を発話時に直接関係付けてしまうので、対話の現場において実際に「風が起こった」という意味になってしまうからである。

“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の違いを、命題内の出来事が対話現場と直接的に結びついているか否かであると捉えることは、呼美蘭1999における“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”が話し手の「視点」と場面の関係を反映しているとする捉え方とも符合するものである。

### 3.2 “了”と「文終止」問題

「文終止」の問題は、聞き手が文の発話意図を解釈するプロセスにおいて生じる問題であると考えられる。聞き手側の解釈という側面から考えると、“了<sub>2</sub>”は語られる出来事を対話の現場に直接的に結びつける役割を果たしているので、聞き手はその文の発話意図をダイクティックな対話の現場の状況に即して解釈する。例えば、(25)には a, b 両方の解釈が可能であり、そのい

ずれを意味するか確定するには、対話現場の状況を参照するしかない。

- (25) “咱们回屋了。”
- |   |             |
|---|-------------|
| { | a. 家に帰りましょう |
|   | b. 家に戻った    |

聞き手が話し手の発話意図を解釈する側面から見ても、“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の性質は大きく異なっていることになる。

- (26) 聞き手側の解釈の側面から見た“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”の違い

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| { | “了 <sub>1</sub> ”：対話現場の状況に依存しない。 |
|   | “了 <sub>2</sub> ”：対話現場の状況に依存する。  |

ここで、中国語における文とは、ひとまとまりの発話意図を表す最小の単位である、と考えてみたい。聞き手にとって、それだけではまとまった発話意図を有するものとして解釈できない言語単位は中国語においては安定した文として成立せず、「文終止」の問題が生じる。<sup>1</sup>

“了<sub>2</sub>”の文については、“了<sub>2</sub>”の付加によりその発話意図の解釈が対話現場の状況に委ねられていることを示しているので、「文終止」の問題から自由である。“了<sub>1</sub>”のみ用いられる文は、対話現場の状況の支えなしに現実の出来事を自足的に伝える文である。(27)において“了<sub>1</sub>”は“养”を現実の個別的動作を意味するものに変える役割を果たしている。同じように“一条”は、目的語の“狗”を現実の事物を意味するものに変えるために付加されるものであり、この出来事に限界性を持たせているのではない。

- (27) 小王养了一条狗。(王君は犬を一匹飼っている)

(27)の目的語に「数詞+量詞」が付加されない場合、「文終止」の問題が生じる理由は、動作が現実化されているにも拘らず、その動作の関わる目的語が現実化されていない単位は現実の出来事を表す文としては解釈不能だからである。したがって「文終止」は2つのレベルに跨る問題であるといえる。一つは、中国語の動詞は結びつく名詞から形態論的な規制を受けないので、

1 孔令达1994は、“他吃了毒药”や“他们离了婚”のようにニュース性の高い出来事を伝える場合は、目的語に数量表現が付加されなくても文終止することを指摘している。

動詞は名詞とは独立に限定されなければならない（新島1955：154）という統語論のレベル，いま一つは，その言語単位が発話場面においてひとまとまりの発話意図を表すか否かという表現のレベルである。

“V了O”形式の目的語に要求される数量表現が，動作を限界付けているというよりも目的語の現実化を担っているとした方が妥当であることの傍証として，目的語が人称代名詞の場合は，目的語が単独であっても「文終止」することが挙げられる。

(28) a. 我知道他拼了，心里有些酸，只说：“保重！”就离了他。

《棋王》

（「がんばれよ。」とだけ言って，彼のもとを離れた。）

b. 我回来时她去车站接了我。

《过把瘾》

（戻ってきたとき彼女が駅まで迎えに来てくれた。）

### 3.3 動作の「限定」と事態の「限界性」

2，3での考察から，(2)のような現象は，どのように捉えられるだろうか。马庆株1988，郭锐1997によると，中国語の変化動詞は，“了”なしでは文そのものが成立しない。

(29) a. \*房子塌 → 房子塌了（家は崩れた）

\*塌一间房子 → 塌了一间房子（家が一間崩れた。）

b. \*小王病 → 小王病了（王君が病気になった。）

\*病一个人 → 病了一个人（一人病気になった。）

（以上，马庆株1988：33）

c. \*桥断 → 桥断了。（橋は折れた）

変化動詞や「動詞＋結果補語」が目的語を伴う用例を観察すると，ほとんどの用例において，その目的語は“把”によって提前されるか，主題として動詞の前に置かれるかのいずれかである。

(30) a. 开午饭了，普洱茶泡好了没有？

《雷雨》

(お昼にしましょう。プーアール茶はできたのかしら?)

b. 哎? 出什么事儿了? 是不是咱们这个经费又吃紧了。《编辑部3》

(我々の経費がまた苦しくなったのか?)

中国語では、目的語が動詞の前におかれる場合、その目的語は既出(定)の指示物を意味する。このことから、中国語の変化動詞、「動詞+結果補語」など限界性の高い動詞(述語)は、個別化された現実の動作しか表さず、非現実の動作を表さないのではないか、ということが考えられる。この点については更なる検討が必要である。

その傍証として、限界性の低い動詞は“不”でも“没”でも否定されるが、限界性の高い動詞はほとんどの場合“没”でしか否定されない、という事実が挙げられる。<sup>1</sup>

(31) 病了(病気になった) → \*不病/没病(病気になっていない)

醉了(酔った) → \*不醉/没醉(酔っていない)

#### 4. 現実の動作に“了”が用いられない場合

最後に、1. 3. 2で挙げた、「実現済み」の動作に“了”が用いられない場合についても、名詞の個体化を担う「数詞+量詞」の用法と並行的に考えればよいのではないか、ということをご提案しておきたい。(32)に見られるように、ある談話において初出の实在物指示の名詞は「数詞+量詞」による限定を受けるが、その談話における指示物の値が明確になった後は、再び単独で用いられるようになる。

(32) 她看看周围，想找到声音发出的地方，忽然看见一只青蛙把厚厚的，丑陋的脑袋从水里伸出来。

“哦，是你吗，老划水的？我的金球掉进水里，我就哭了。”她说。

“安静点儿。”青蛙答道，…

《格林童话》

1 条件文の前件に現れる場合は“不”で否定される。  
你要不把它关上，我就用石头砸碎(了)它。

(李兴亚1989)



(姫は、あたりをみまわした。ぼてぼて面のいほ蛙が、水から顔を突き出していた。「水くぐりの蛙だね」と、蛙がいった。「わたしの大事な黄金のまりが泉に落ちた。水をくぐって沈んでしまった」「ならば、泣くにはおよばない」蛙がいった。)『グリム童話』池内紀・訳(ちくま文庫)

“了”も同じように、出来事の場所や時間が明らかにされ、ある特定の時空間に起こった特定の出来事だということが明らかにされた後は、いちいちの動作についてそれを明示する必要がなくなるということではないだろうか。

## 5. 結 論

アスペクト論における「限界性」と本論における「現実性」とは、論理的には何の繋がりも持たない別々の概念である。しかし、人間は事物や事態の変化によって時間を認識するといわれる。このため人間の意識しやすい現実の出来事とは、往々にして変化の限界点を有するものであろうと考えられる。そうすると、事態の「限界性」と「現実性」という二つの概念は、主観的認識においては密接な関係にあるものなのかもしれない。

しかしながら、本論で提出した、状態的な事態を表す“了”の用例を含めて包括的な説明力を持つことから、後者の概念のほうがより適切に“了”の役割を捉えたものであるといえる。

### <主要参考文献>

[中文]

白荃2000<“不”，“没(有)”教学和研究中的误区——关于“不”，“没(有)”的意义和用法的探讨>《语言教学与研究》第3期：21-25.

陈平1988<论现代汉语时间系统的三元结构>《中国语文》第6期：401-422.

郭锐1993<汉语动词的过程结构>《中国语文》第6期：410-419.

\_\_\_\_1997<过程和非过程——汉语谓词性成分的两种外在时间类型>《中国语文》第3期：162-175.

孔令达1994<影响汉语句子的自足的语言形式>《中国语文》第243：434-440.

李兴亚1989<试说动态助词“了”的自由隐现>《中国语文》第5期：334-340.

- 刘勋宁1988<现代汉语词尾“了”的语法意义>《中国语文》第5期：321-330.
- 刘月华等1983《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社.  
 \_\_\_\_\_2001《实用现代汉语语法（增订本）》商务印书馆.
- 陆俭明1988<现代汉语中数量词的作用>《语言研究和探索》4. 北京大学出版社.
- 马庆株1992《汉语动词和动词性结构》北京语言学院出版社.
- 孟琮·郑怀德等编1999《汉语动词用法词典》商务印书馆出版.
- 沈家煊1995<“有界”与“无界”>《中国语文》第5期：367-380.
- 石毓智1992<论现代汉语的“体”范畴>《中国社会科学》第6期：183-201.  
 \_\_\_\_\_2001a《肯定与否定的对称不对称（增订本）》北京语言文化大学出版社.  
 \_\_\_\_\_2001b<汉语的限定动词和非限定动词之别>《世界汉语教学》第2期：23-27.
- 徐通锵1997《语言论：语义性语言的结构原理与研究方法》东北师范大学出版社.
- 杨庆蕙 主编1996《对外汉语教学中的语法难点剖析》北京师范大学出版社.
- 郑懿德·马盛静恒·刘月华·杨甲荣1992《汉语语法难点释疑》华语教学出版社.

[日文]

- 相原 茂1982「中国語の複句」『講座日本語学11外国語との対照Ⅱ』（明治書院）：240-258.
- 荒川清秀1980「中国語の状態動詞」『愛知大學 文學論叢』第65輯：1-26.  
 \_\_\_\_\_1981a「中国語動詞にみられるいくつかのカテゴリー」『愛知大學 文學論叢』第67輯：1-25.  
 \_\_\_\_\_1981b「“了”のいる時いらぬ時」『中國語学』228号：70-79.
- 橋本萬太郎1976「自然言語と時間の表現」『言語』12月号：7-15.
- 倉石武四郎1963『岩波中国語辞典』（岩波書店）.
- 呼美蘭1999「小説における“V了O”と“VO了”の一考察」『中國語学』246号：89-97.
- 井上 優·黄麗華2000「否定から見た日本語と中国語のアスペクト」『現代中國語研究』第1期：113-122.
- 木村英樹1981「被動と『結果』」『日本語と中国語の対照研究』No.233：101-112.  
 \_\_\_\_\_1982「中国語」『講座日本語学11外国語との対照Ⅱ』（明治書院）：19-39.  
 \_\_\_\_\_1983<关于补语性词尾“着/zhe/”和“了/le/”>《语文研究》第2期：22-30.  
 \_\_\_\_\_1996『中国語はじめの一步』（ちくま新書）.  
 \_\_\_\_\_1997a「動詞接尾辞“了”の意味と表現機能」『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』（東方書店）：157-179.  
 \_\_\_\_\_1997b「‘变化’和‘动作’」『橋本萬太郎記念中国語学論集』内山書店：185-197.  
 \_\_\_\_\_2002「アメリカにおける中国語文法研究の動向」『中国語学』249号：285-306.
- 梁紅1999「中国語の結果相（resultative）とパーフェクト（perfect）」『中國語学』246号：175-184.
- 益岡隆志1991『モダリティの文法』くろしお出版.

- \_\_\_\_\_1997『新日本語文法選書2 複文』くろしお出版。
- 益岡隆志編1993『日本語の条件表現』くろしお出版。
- 中川正之1979「『着-zhe』と『了-le』」『アジア研究』創刊号（広島大学総合科学部）：59-67。
- 中川正之・李浚哲1992「日中両国語における数量表現と名詞」『日本語と中国語の対照研究論文集（上）』くろしお出版。
- 新島淳良1955「中国語における限定について」『大倉山学院紀要』2：151-166。
- 大石敏之1982「“了”と『文終止』について」『中國語学』229号：32-36。
- 大河内康憲1967「複句における分句の接続機能」『中國語学』176号。参照したのは大河内康憲1997『中国語の諸相』（白帝社）：86-106。
- \_\_\_\_\_1970「“走了进来”について」『中國語學論集』（伊地智善繼編科研論文集），参照したのは大河内康憲1997『中国語の諸相』（白帝社）：161-174。
- \_\_\_\_\_1974「被動が成立する基礎」『中國語学』220号。参照したのは大河内康憲1997『中国語の諸相』（白帝社）：115-134。
- \_\_\_\_\_1985「量詞の個体化機能」『中国語学』232号。『中国語の諸相』：53-74。
- \_\_\_\_\_1997『中国語の諸相』（白帝社）。
- 讚井唯允1992「語用論的具体化と一般化——いわゆる“無定 NP 主語句”と“存在句”を中心に——」『人文学報』No.234：139-170。
- \_\_\_\_\_1996「アスペクト研究のアプローチと目標」中国語学会第46回全国大会 全体研究発表。
- \_\_\_\_\_1998「中国語の『文終止』とコンテクスト性」『現代中国語学への視座・言語篇』神奈川大学中国語学科編（東方書店）：31-41。
- \_\_\_\_\_2000「“在等” “等着” “在等着”」『人文学報』No.311：53-73。
- \_\_\_\_\_2002「コムリーのアスペクト論と日本語・中国語のアスペクト体系」『日本語と中国語のアスペクト』日中対照言語学会（白帝社）：67-77。
- 原由紀子1994「“了0動量”と“了0.”」『中国語学』241：89-99。

[欧文]

- Chao, Y. R. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*, University of California Press.
- Comrie, B. 1976. *Aspect*. Cambridge University Press. 山田小枝訳『アスペクト』（むぎ書房）。
- Jaxontov, S. Je. 1957. *Kategorija glagola v kitajaskom jazyke*. Leningrad: Izdatelstvo Leningradskogo universiteta. 橋本萬太郎（訳）『中国語動詞の研究』白帝社。
- Langacker, R. W. 1991. Nouns and Verbs. *Concept, Image, and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar*. Mouton : 59-100.
- M. Koptjevskaja-Tamm. 1999. Finiteness. In Keith Brown and Jim Miller. (eds.)

1999. *Concise Encyclopedia of Grammatical Categories*. Elsevier.
- N. Li. Charles & S. A. Thompson 1981 *Mandarin Chinese*, University of California Press.
- N. Li. Charles & S. A. Thompson & R. M. Thompson 1982 The discourse motivation for the perfect aspect: Mandarin particle *le*. *Tense-Aspect: Between Semantics and Pragmatics*, John Benjamins Publishing.
- Tai, James H-Y 1984. Verbs and Times in Chinese: Vendler's Four Categories. *Lexical Semantics*, ed by David Testen. Chicago Linguistic Society.
- \_\_\_\_\_ 1985. Temporal Sequence and Chinese Word Order. *Wang Li Memorial Volumes*. Joint Publishing Co. (HongKong)
- Vendler, Zeno. 1967. *Linguistics in Philosophy*. Cornell University Press.

### <用例出典>

#### [文学作品]

- 《歌神》：王蒙1979<歌神>《人民文学》第八期。
- 《风》：《脑筋爷爷（三）》少年儿童出版社。
- 《格林童话》：叶文 等译1991《格林童话全集（上）》上海译文出版社。
- 《棋王》：阿城1984<棋王>《上海文学》7月号。
- 《过把瘾》：王朔<过把瘾就死>1998《王朔自选集》华艺出版社。
- 《玩主》：王朔<玩主>1998《王朔自选集》华艺出版社。
- 《雷雨》：上海戏剧学院戏剧文学系编《中国话剧选（一）》上海文艺出版社。

#### [テレビ番組・連続ドラマ]

- 实话实说：中国国营中央电视台，スタジオ討論番組《实话实说》2001年放送分。括弧内の日付は、日本での放送日である。
- 《过把瘾1～5》北京文化艺术音像出版社，北方国际广告有限公司联合摄制。参照したのは、1996『華夏影視』（日光商事映像事業部発行）。
- 《贫嘴1～20》：北京电视艺术中心，北京电视台等摄制，电视连续剧《贫嘴张大民的幸福生活》。
- 《编辑部1～10》：北京电视艺术中心制作，連続ドラマ《编辑部的故事》中国語情報サービス発行。

### <付記>

本稿校正作業中に木村2002を通して Huang S-Z (黄師哲)(近刊)<论汉语中事件论元和无定名词短语之间的关系>《中国语言学论丛》の存在を知った。本稿で採用した「現実」に類する概念についてより詳細な検討が加えられているようである。残念ながら本稿ではその研究成果を参照することが出来なかったが、今後考察を進めるにあたり、注目すべき論文であることを記しておく。